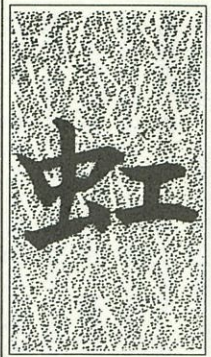


第二回運動会を終えて

内田 法和

今年の運動会は、例年
にない長雨の影響で、練
習も準備も満足にできな
いうちに当日を迎えた。
職員は早朝六時三十分
に出勤し、雲行きを心配し
ながら、小雨のぱらつく
中でグラウンド整備などを
行なった。しかし準備も
全て終了した頃には、前
日は打って変わった青
空が広がり始め、職員一
同ホッと胸をなでおろし
た。前日から「てるてる
坊主」を作って、晴れを
祈った園生らの願いが天
に通じたのであろう。



中里の家だより
第 11 号

発行年月日
昭和63年11月1日

発行
社会福祉法人
安房広域福祉会

〒294-02
館山市中里288-1
0470 (28) 2022

秋晴れの空のもと、グラウンドは
万国旗で彩られ、その中で音楽に
合わせて力強い入場行進が始まっ
た。そして練習を重ねた開会式も
緊張のうちに終わり、いよいよ競
技開始。覇を競う百米走で火ぶた
は切って落された。園生選抜のみ
ごとな組み体操、地域の方々や来
賓・保護者の皆さんが、顔をまっ
白にして参加して下さったアメ食
い競争、そして午前の部最後のプ
ログラムは作業班紹介。作業服姿
で作品を手に、グラウンドを行進す
る園生の顔は皆たくましく、誇ら
しげでもあった。

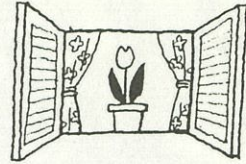
楽しい昼食の後、午後の部は応
援合戦で始まった。白組は可愛い
コスチュームを身につけた女子の
応援団が「サインはV」の曲にのっ
た踊りを披露し、応援席には甲子
園も顔負けの「V」の人文字がで
きた。一方紅組は、学生服に身を
包んだ男子の応援団が男らしい応
援を繰り広げた後、ソウル・オリ
ンピックのテーマ曲が鳴り響く中、
華麗な(?)水着姿へと変身し、シ
ンクロのダンスで場内を沸かせて
くれた。



楽しい雰囲気うちにプログラ
ムは次々と進行し、緊迫の紅白リ
レーによって第二回中里の家運動
会は幕を閉じた。今年は紅組が優
勝したが、勝った紅組も敗れた白
組もみんなが精一杯頑張り、共に
いい汗を流した。
運動会を終え、晴ればれとした
顔で家庭実習へと向かう園生を送
り出しながら、中里の家の園生達
は、明るくたくましく成長してい
るのではないかと実感した。

施設運営の 向上を目指して

施設長 山口 一



「中里の家」も開設以来一年半を経過して、ようやく施設としての形が整い、落ち着きも出てきたように感じます。今までは手探りだった運営も、客観的に考えられる余裕が少しは出てきたようです。そうなりますと、果してこれで良いのだろうかという反省と、より改善・向上を図らなければならぬという意欲が湧いてくるものです。私はこの雰囲気を大事にして行きたいと思えます。福祉施設は「人」であると言われますが、数ではなく、その心だろろうと思えます。我が施設の充実・発展は、職員の資質の向上にあると言っても過言ではないと考えます。そのためにも、職員研修を重点にして

いかなければなりません。幸いに我が施設の職員は少数精鋭、一人一人が立派に職務をこなしていることは心強い限りです。

過日、研修の一環として、全職員に各人が日常行っている入所生の呼称についてどの様に受け止めているのか、考えを論文形式にまとめて提出してもらいました。名前を呼ぶのに敬称(君・さん)をついたり、呼び捨てにしたり、あるいは愛称で呼ぶなど様々ですが、考えてみますと人権の尊重あるいは平等という基本的な問題として、いろいろな意味の含まれている行為です。あえて取り上げて職員個々の考え方を理論的にまとめてもらったものです。各人の論文は公表できませんが、いろいろな議論が展開されました。結論的に申し上げますと、要は愛情と相互理解の問題だということになるようです。私もそのとおりだと思います。「呼称」という形式だけをとり上げたことがナンセンスであつたと感じるほど、我が施設の職員は全員がしっかりとした考えを持っており、福祉の心を具えているこ

とが再確認でき頼もしく感じた次第です。少し褒め過ぎたようですが、心強い頼もしい職員が居るということは、とりもなおさず入所生の福祉向上につながると思うからです。

私達は、現在に満足することなく更に研鑽を重ね、施設の発展と入所生の幸せを図って行かなければならないと考えております。

調理場より

家守美由子

「調理」という言葉は、料理をするという意味の他に「整え、収める」という意味もあるようです。料理は美味しく作るだけではなく、きれいに作らなければならぬという事を言っているのだと、私なりに考えています。併せて「調理場」とは、常に整理整頓されていなければならないという意味も持っていると思えます。「美味しく、きれいに、そして、整理された調理場」、私はこの三つをモットーに今まで働いてきました。し

かし言葉では簡単に言えますが、この三つを満足させる事はとてもむずかしく大変です。

全くの素人から始めて栄養士さんのお教えを請い、一步一步勉強して、少しでも園生始め皆さんに喜んで頂けるよう努力しています。私の主人は食事の後、必ず「今日の食事は美味しかった」とか、又まずい時はそれなりに何か言ってくれます。「美味しかった」と主人の口から自然に言われた時は、食事の支度の大変であった事や片付けのめんどうであること、その他諸々の胸のつかえがいつべんに消えてしまい、「明日も又喜んでもらえる物を」と意欲がわいてきます。

園生の顔にも、最近それに似た言葉や態度等が数多く見られて、うれしくなります。

三つの条件を少しでも満足させる事が出来るよう、頑張ろうと思っています。



思うまゝに

網代とめ

子供が入所してから一年半になります。中里の家の建設に当りましては、数多くの皆様のご努力に感謝致して居ります。「又来るからね、先生の言う事をよく聞いてね」に「うん、うん」とうなづいてくれます。入所前よりは明るくなり、少しはしっかりして来たように思います。親子共に心の安らぎを感じる此の頃です。施設長さん始め、職員の皆さんの温かく優しい家族的な雰囲気の中で過ごさせて戴きまして、ほんとうに幸せと感謝の念で一杯です。納涼大会や一泊旅行等、職員の皆様のお骨折りで親子共に楽しく過ごさせて戴き、心より有難く思っています。

十月十五日、市民センター広場で「ふれあい広場」が開設された。この「ふれあい広場」は、館山市社会福祉協議会・身体障害者福祉会・手をつなぐ親の会・肢体不自由児父母の会などが共催し、障害者との交流事業を通して障害者に対する地域住民の理解を深めることを趣旨として、昭和五十六年から毎年開設されているそうである。「中里の家」からは、今年も十八名の園生と六名の職員が参加した。

ふれあい広場に

参加して

山口時代

十二月三十分、「犬石」発の路線バスに乗り館山まで行った。日頃皆、路線バスなどあまり利用したことはないが、バスの中ではおとなしく、又下車する時にも一人一人がお金を運賃箱に入れることができた。

会場に着いてからは三、四人のグループに分かれて行動したが、それぞれが輪投げやもぐらたたきなどのゲームをしたり、高所作業車に乗せてもらって空中散歩をしたり、模擬店で焼きそばや綿あめ・コーヒール・ケーキなどを買って食べたりと、楽しく過ごした。また安房養護学校の先生や生徒たちの、息の合ったみごとな和太鼓の演奏を聞くこともできた。

そして帰りには駅前の中村屋でお茶を飲み、一休みした。皆がメニューを見て、プリン・アラモードやレモン・スカッシュ、みつ豆など好きなものを注文した。普段施設での生活では、自分の好きなものを選ぶなどという機会はどうしても少なくなってしまうがちなため、この時の事は園生にとってはとまどい半分、嬉しき半分であったらうと思う。

秋の日は短く、風船や水ヨーヨーなど、今回は留守番をした園生へのお土産を手に中里の家に向かう頃には、もうとっぷりと日は暮れかけていた。

今回の「ふれあい広場」に参加して得たような体験を積み重ねることにより、園生たちに、なんでもやればできるのだ」という自信をつけていって欲しいと思う。

日増しに秋は深まり、木々のこずえも色づいて、今年も残すところ11月・12月だけとなりました。今までも、楽しい行事を……と心がけてきましたが、11・12月も盛りだくさんの行事を計画しています。

まず11月の初めは、皆さんが楽しみにしている富士・箱根方面への一泊旅行。そして月末には、園生の皆さんの日頃の努力を披露する収穫祭を予定しています。今年も園芸・作陶・木工・縫製の4部の他に、新しく農耕部が加わり、その成果が期待されます。

12月には、初旬に往復徒歩での南房パラダイス遠足、下旬には、どんな出し物が飛び出すか楽しみなクリスマス会、そして保護者の皆さんが張りきる餅つき大会で、今年の行事も幕となります。

みんなで力を合わせて、楽しい行事にしましょうね!!

11・12月の
行事予定

加藤祥子

見せます、魅せます 園芸部！



|| 園芸部 ||

あり谷ありでしたけどね。

今年四月、その頃は温室の片隅にしかなかった蘭の鉢も、二ヶ月後にはすっかり温室内を埋め尽くすまでに増え、ようやく本格的な蘭栽培が始まりました。水かけ・草取り・施肥・芽かき…、どれも皆単調な作業のようですが、思った以上に「仕事の丁寧さ」が要求されます。特に水かけは、蘭栽培をする上で一番のポイントで、やり方次第で蘭の生命を絶ってしまう事さえあります。その為、一鉢一鉢にホースを使って充分に水を与えます。鉢の数は

作業棟北側に建つ温室内は、見渡す限り蘭、蘭、蘭……。その数およそ六百鉢。それらを一手に手掛けているのが我が園芸部です。今年の四月からメンバーも一新し期待と不安の入り混じる中でスタートした作業活動も、六ヶ月を経過した今では、チームワーク・作業姿勢ともにピカ一です(?!)。尤もここまでのどり着くまでには山

六百、どうです？ 考えただけでも大変な作業でしょう。しかし細霧冷房という素晴らしいシステムを導入したおかげで、七月・八月はこの重労働から逃れる事ができました。何せ、自動的に水かけが行われるのですから。その代り、一年中

多湿という条件の下で、ここぞとばかりにはびこる雑草との戦いが、三十度を越す蒸し暑い温室の中で連日繰り返されたのです。そんな苦勞のかいあって、去る十月九日の運動会では、丹精込めて作りあげた蘭を手に、日頃の作業の成果を皆さんに見ていただく事ができました。誇らしげな顔で堂々と行進する姿を見ただけでも充実した作業の様子がわかっていただけたのではないのでしょうか。

あれから数日後、温室の片隅で今年度第一号の白い華麗な花が開きました。「咲いたよ！」と伝えるに一人の、うれしそうに笑顔がとて印象的でした。みんなの苦勞が、今着々と報われつつあります。その喜びを一つ一つ噛みし

めながら、これからもこつこつと仕事をしてゆきたいと思っています。今後とも、我が園芸部をどうぞよろしくお願いします。

編集後記

鎌田善一

秋は大きな行事が目白押しです。先日運動会が終わり、十一月初旬には一泊旅行を控えています。二年目ということもあり、園生も行事に対する心構えがだいぶ出てきたようです。十月には買物指導が行われましたが、これからは外出の機会を、園生がそれぞれの課題に応じた学習の場にして行ってもらいたいと思います。

三寒四温という言葉のとおり気候の変化が激しいこの頃ですが、風邪をひかないように毎日生活していきたいと思